

は〜とふる 日光



『男女共同参画社会づくり』のための広報紙「は〜とふる日光」。今回のテーマは“家族”。私たちは家族のあり方を考える中で、家族みんなで力を合わせて仕事をしている様子など、幸せに暮らしている人々取材させていただきました。

お互いを大切に思い、尊敬するって
なんだかとってもいい感じ

うどん屋さんを営みながら、夫婦で地域づくりに貢献している菅野さん。伸光さんは、^{あかがね}「銅太鼓」のチームをもち、小学校で太鼓の指導、また妻の幸美さんは、子どもからお年寄りまで体操の指導をしています。「今しか出来ないことがある。だから、お店が忙しい時間の中で、幸美が体操の指導に行く時も『いつてらっしゃい』と、笑顔で送り出せる。」と義母のセツ子さん。幸美さんも「母が気持ちよく送り出してくれるから、私も『行ってくるね』と言える。本当に感謝しています。」と笑顔で返す。そんなやりとりが自然にできる足尾地域の菅野さんご家族にお話をうかがいました。



あきら
映さん

うどん屋を手伝う以前は坑内で働いていました。義父母に「坑内での仕事は体を壊すから」と体調を気遣われお店を手伝うことに...



セツ子さん

夫に対して「慣れない時は本当に大変だったと思う。」と氣遣います。



美登里さん

高校卒業のころ、母が体調を崩したため、卒業と同時に、お店を手伝うことに...。 ※それってすごいことよね! やりたいこともあったと思う。 by 幸美



伸光さん

忙しくて大変だけど、その大変さをどうコントロールするかがおもしろいよね



幸美さん



Q. ホットする時ってどんなときですか?

A. ^{のれん}暖簾をしまう時かな!

Q. 家族が仲良くやっていく秘訣はありますか?

A. がまんしないこと。

と全員が声を揃えましたが、その後、「両親は、自分と違った考え方で、生活してきた。幸美ともお互いそれぞれの場で、活動する時もある。だから、親とも妻とも尊敬しあえるし、会話も弾むんだよね。」と、伸光さん。

※そんなことを言っていますが、仕事には厳しそうでした。

「まだ、孫たちが小さかった頃、親戚一同でバスを借りて、夏休みに旅行をするのが楽しみだった。それを励みに、また一年がんばろうと思えた。」とセツ子さん。

今はお孫さんたちが成長し、全員揃った旅行にはなかなか行けないようです。

※きっとその時の思い出が、今をつくっているのだと感じました。



難しいな!!

でも楽しいね!

伸光さんの太鼓の指導の様子



ワンツー!
ワンツー!

幸美さんの体操の指導の様子

取材を終えたとき、私たちもなんだか心がほんわかしていました。「そんな、仲良くないよ!」と言いながら、そこにはお互い助け合い、認め合い、尊敬し合い、高め合い、相手を大切に思う気持ちがあふれていました。(足尾地域取材: 鈴木恵 関純子)

気が付けば…“わたしの故郷”



レストセンターを営んでいる、堀内家のベバリーさんと哲夫さん。二人は宇都宮の英会話スクールで先生と生徒という立場で知り合いました。その後、アメリカの同じ大学で学び、お互いに魅力を感じ学生結婚。卒業後日光に住むことに…。故郷アメリカから離れて暮らしているベバリーさんに、今までの生活を振り返っていただきました。

生活

言葉もわからず、商売のことも手伝いをする程度、と楽観的に考えていましたが、嫁いでから半年間は毎日「カリフォルニアに帰りたい。」と思っていました。でも、夫がとても協力的で、また義母もマイペースな自分を理解してくれたことはうれしかったです。その後、子どもが生まれ、「子はかすがい」を実感しました。

子育て

娘が生後6ヶ月を過ぎると、寝室を別にするなど、幼い頃から親と離して育てるという生活パターンで、“アメリカの娘”として幼稚園まで育てました。娘には自分で危険を感じとれるように、また物事の良い悪いの判断ができるようにと教え、過保護にならないように気をつけました。そのことが子どもの自立につながったと思います。

転機

10年くらい前から商売にも慣れ、お店の女将としてお客様と接することが楽しくなりました。修学旅行の子どもたちに、「心のこもった食事を」と考え、料理を勉強し、カレーライスづくり方をマスターしました。このような思いや経験が、自分を変身させ、今では生きがいとなっています。

今では…

結婚して26年になりますが、来日後、出会った友達に今でも助けられています。

また、日光在住の外国人に相談することで、辛いことも笑いに変わられ、この仲間で作るネットワークで私は先輩になっています。さらに、町内同業者の女将さん達との食事会は、情報交換の場になっていて楽しい集まりです。

まつり

日光の祭りは、夫があまりにも夢中になるので、はじめは好きになれなかったのですが、いつの間にか子どもと一緒に地域に溶け込んでいき、今では、みんなで楽しんでいます。



まつりのあとのお迎えにも慣れ、ちようちゃんが似合っています。

妻から夫から

◇どんなに忙しいときでも、アメリカへの里帰りに快く送り出してくれる本当に優しい哲夫さん。商売をしていると、「休みなし」の生活なので、お互いに健康に気をつけましょう。

◇是非、時間をつくって京都旅行へ行きましょう。

国民性の違いなのか、驚かされる子育てに学ぶこと大。思い出に残る京都旅行の実現を応援します。

(日光地域取材：小林久子 小日向智)

いい和、家族って

核家族が増えている中、湯西川に四世代でお住まいの君島さん宅を訪ねました。

〔家族紹介〕

初代、大正生まれの栄さんとミキさん。

栄さんは、現在、車いすの生活です。むかしからずっと日記をつけていて、家族一人ひとりの毎日の生活を綴っています。

二代目、昭和生まれの哲さんと国恵さん。

三代目、孝さんと純子さん。お2人のお子さんはいずれも小学生の総勢8人家族。

現在、二代目の君島 哲さんが孝さん夫妻と一緒に物産卸業を営んでいます。



一家団樂がピッタリの笑顔の絶えない家族でした。

左から後列：国恵さん 孝さん 純子さん
ミキさん 栄さん

前列：哲さん 樹さん 彩花さん



家族への感謝の気持ちを胸に秘め、一日一日を元気いっばいに過ごしています。

○自分たちの家族をどう思いますか？

哲さん：にぎやかで楽しい家族ですね。

ミキさん：わたしたち年寄りをひ孫たちをはじめみんなが気遣ってくれて、大事にしてくれます。

国恵さん：ひいおじいちゃん（栄さん）が車いすの生活なので、みんなで助け合い、協力している家族です。

○家族の中で「家族での決め事」はありますか？

純子さん：特に役割分担はありません。お互いを理解しながら、自分のできることは自分でやり、困ったときに助け合うようにしています。決まりごともなく、食事などもそれぞれの世代のお母さんがつくったものをみんなで一緒に食べています。食事の時に子どもたちは学校のことを話してくれ、お父さんたちは仕事の話をしてながら晩酌をしています。みんなでスポーツ番組やお笑い、特に「相撲」と「笑点」を見るのが、楽しい団樂のひとつです。

○大家族がうまく生活していく秘訣は？

孝さん：うーん。みんなが健康に気遣い、笑顔でいることです。

純子さん：お互いを認め合うことです。

○最後に「家族」とは？

純子さん：みんなが個々を認めながら、まとまって助け合うものだと思います。

孝さん：思いやりのある家族愛を持ち続け、生きていく中でとても大切なかけがえのないものです。



取材をさせていただき、とてもエネルギッシュなパワーをいただきました。常に笑いがあふれ、一人一人が家族を大切に思っているという気持ちがひしひしと伝わってきました。

ムードメーカーのひ孫さんたち二人が、元気の源なのかもしれませんね。

（栗山地域取材：斎藤恵子 阿部 文子）

“男女共同参画プラン日光”と“日光市農業・農村男女共同参画ビジョン”を策定



平成20年3月、日光市の男女共同参画推進のための計画「男女共同参画プラン日光」が策定されました。

このプランは、日光市男女共同参画プラン策定委員15名の方が、平成19年8月から会議を重ね素案を作成し、パブリックコメント等を経て策定されたものです。このプランに基づき、男女共同参画社会づくりを推進し、「一人ひとりが輝く男女共同参画社会」を目指します。

また、男女共同参画プランの農業版「日光市農業・農村男女共同参画ビジョン」も3月にできあがり、“女と男 共に輝き豊かで活力ある地域”を目指し、今後推進していきます。

ニュース 2

日光市男女共同参画都市宣言記念事業を開催

ひと ひと
～女と男 共にひかりの郷づくり～

平成20年3月15日（土）今市文化会館において日光市男女共同参画都市宣言記念事業を実施し、日光市が「男女共同参画宣言都市」の仲間入りを果たしました。都市宣言文の発表やコンクール（ポスター・キャッチフレーズ）入賞者の表彰が行われた後、テレビでもお馴染みの弁護士 住田裕子氏による記念講演が行われました。参加者は住田さんのお話に耳を傾け、楽しいひと時を過ごしていました。



子ども（日光少年少女合唱団員）と大人（関係委員）により、声高らかに宣言しました。



住田さんによる記念講演のひとコマ。
「一人ひとりが輝こう …私の個性もあなたの個性も」

ニュース 3

これからの事業予定は…？

◇男女共同参画セミナー【入場無料】

10月21日（火）14:00～ 藤原総合文化会館会議室

「肩の力を抜いた子育て」

講師：柴田愛子 氏（保育施設「リンゴの木・こどもクラブ」代表）

10月31日（金）14:00～ 日光総合会館大会議室

「男女共同参画社会づくりは家庭から」

講師：越田幸洋 氏（学社融合研究所代表）

※その他、足尾・栗山地域でセミナーを開催予定。

広報紙「はーとふる日光」へのご意見・ご感想をお聞かせください。
〔日光市男女共同参画課（0288-21-5148）〕

日光市男女共同参画都市宣言

日光市は、世界遺産に代表される悠久の歴史と文化をもった、美しい緑と清らかな水に恵まれたまちです。

わたしたちはこのまちに誇りを持ち、男女が性別や世代を超えて、互いに対等なパートナーとして、自立・平等・責任を胸にあらゆる分野に参画し、一人ひとりが生き生きと輝く「ひかりの郷・日光」をつくるため、ここに「男女共同参画都市」を宣言します。

認めあおう！輝く個性 あなたと私 ひと ひと
支えあおう！家庭・職場・地域の中で
あふれるやさしさ 思いやり

参画しよう！希望を抱き
心豊かな未来をひらくため

平成20年3月15日

あいわ あいわ 夫婦愛和・家庭愛和が 何より大切!

時代の変化が激しい昨今、子どもとどう接していけばいいのか迷う方もいるのではないのでしょうか。

今回は、ファミリー・サポート・センターの活動をはじめ地域のお子さんを自宅で預かるなど、ご夫婦で子育て支援を行っている、土沢在住の鈴木清司さん・キヨノさん夫妻をリポートしました。



○日頃、子育て支援活動をされていて何か感じることはありますか？

清司さん：一番思うのは、子どもをゆっくり育ててほしいということです。今の親御さんは忙しすぎるため、子どもの行動を待たずに口や手をすぐ出してしまうように感じます。周りがゆっくり待てば、子どもは自分で考える力やこのまま行動する力を身につけるものだと思います。

キヨノさん：「子どもは親の背中を見て育つ」と言いますが、子どもがすくすく健やかに育つためには、まず夫婦が仲良く、そして家族みんなが仲良く暮らすことが何よりも大切です。そのような環境の中で育てば、今、社会問題となっている犯罪やいじめは起こらなくなるでしょう。子育てしている人が社会を変えと言っても言い過ぎではないと思います。

○預かるお子さんとは、どのような気持ちで接していますか？

キヨノさん：「おばあちゃん、おにぎり作ってー」と言ったり、冷蔵庫の中をのぞいたり、うちに来る子はみんな孫のようですよ。でも「このようにしてね」と言うと、小さな子もきちんと守ります。子どもは大人の言うことを理解しているんだな、と思いました。

○子育てのお手伝いをするようになったきっかけは何ですか？

清司さん：私は12年ほど前に、病気で命を失ってもおかしくない状況になりました。その時思いがけず、深い間柄でなかった人が心配して見舞いに来てくれました。とてもありがたく感じたと同時に、今まで周りが見えていなかったことに気付き、これからは恩返しをして生きようと思いました。それから子どもたちを預かるようになりました。今では、恩返しのつもりが、子どもたちからエネルギーをもらって生かされているように感じています。



「♪柱のキズはおととしの…」お子さんと遊びに来る子どもたちの成長のあかしです

○最後にズバリ！夫婦喧嘩をされることはありますか？

キヨノさん：昔はよくしましたが今はしませんね。(笑)今はお互いのことを信頼して、相手の領分には入らないようにしているからでしょうか。

清司さん：たまに夫婦で旅行でも行きたいのですが、子どもたちが来るので行けないことが唯一の悩みかな。でも、行きたいけど行けない、というのがいいのかもしれないね。



お互いを尊重されているご夫婦だからこそ、お子さんたちが居心地よく過ごせるのでしょう。見本にしたいご夫婦でした。

(今市地域取材：星ゆき子 川口俊成 石川正美)



秋葉ファミリー 左から後列：克美さん 孝志さん
前列：有子さん ヤス子さん

孝志さんは、みんなの行動や動きを判断して的確に指示していました。この夏、中国から研修生を受け入れ、ほうれん草栽培や日本の農業経営などのノウ・ハウを教えています。経営者として、ほうれん草への思い、農業への思いを感じました。

何よりも家族の中で「よく話し合いがされているな」と思いました。どのようなことでも話し【報告】、小さなことでも伝えられ【連絡】、何でも話し合える【相談】チームワークが「秋葉ファミリー」のすばらしさです。

◇家族で一番大切にしていることは？

健康です。野菜の出荷のオフにはみんなで温泉旅行へ行って、心と体をリフレッシュしています。

孝志さん、有子さん夫妻には二人のお子さん（高校生）がおり、小さい頃はよく克美さんやヤス子さんと一緒にほうれん草畑で遊んだり、収穫や家事も手伝ってくれたそうです。



中国からの研修生も交え、収穫に汗を流す皆さん。

鶏頂山でとってもおいしいほうれん草と大根をつくり、家族とその仲間たちで経営している「秋葉ファミリー」をご紹介します。

ほうれん草農家の朝は早い。

一日のスケジュールは、社長の孝志さんから指示され、家族がそれぞれ作業に入ります。母のヤス子さんは、主にほうれん草の収穫を、孝志さんの妻有子さんは製品管理・出荷を行います。父の克美さんは、みんなの仕事を総合的にバックアップ。軽トラックの運転から荷物の積みおろし、後片づけまで何でもこなします。

◇家族で仕事をしていることで、特に工夫していることは？

克美さん：信頼感といたわりかな。

ヤス子さん：相手の立場に立って考え、理解することです。

孝志さん：お互いに干渉しないことです。

有子さん：気持ちをためないことかな～。おじいちゃん、おばあちゃんが私の味方になってくれるのです。（笑）



ほうれん草収穫の様子

◇今、大変なことは何ですか？

燃料費や資材が値上がりしていることですね。

◇最後に、男女共同参画社会についてどんなことを感じますか？

家族がともにいたわり、それぞれの立場を理解しあえることが大切ですね。どんな仕事でも一人ではできません。

毎日、夫婦・家族で仕事をしている中で、何でも話せる場が大切ですね。

効率よく、無駄のない仕事には、やはり「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」。「家族の絆」をとても感じました。秋葉家のみなさん、お仕事をされていた皆さん、ご協力ありがとうございました。（藤原地域取材：石原浩一 沼尾透子）